

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 51

2012年3月27日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。  
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

<お知らせ>

静岡大学イノベーション共同研究センター及び知的財産本部は、2012年4月1日より「イノベーション社会連携推進機構」になります。  
引き続き皆さまのご支援ご協力を頂きたいようお願い申し上げます。

■□

□ I J R C 創立 20 周年特別寄稿 -12-

—静岡大学イノベーション共同研究センター [IJRC]

(旧：地域共同研究センター)は2011年4月に20周年を迎えました—

Thomas L. Friedman著 “THE WORLD IS FLAT The Globalised World in the Twenty-First Century” によれば、1492年にコロンブスがアメリカ大陸を発見してから1800年頃までは、馬、風、蒸気力が主流で、国のグローバル化 (Globalization 1.0) 2000年までは、航空機などの移動手段が発達し、多国籍企業によるグローバル化 (Globalization 2.0) の時代であった。しかし、2000年以降は、個人がローカルな場所にながら、PCを介してグローバルに協働あるいは競い合うこれまでとはまったく違う時代に入り、世界中と繋がっているネットワークにより、夕方までの仕事は地球の裏側で翌朝までに完成する、24時間止まることのない “平らな世界というプラットフォーム” のまったく Globalization 3.0 の時代になったと断言している。

さて、大学について振り返ってみる。地域共同研究センターが地域連携1.0とすれば、イノベーション共同研究センター・知財本部の時代は、地域連携2.0であろう。本年4月からイノベーション共同研究センターが社会連携機構の一部に組織変更になるという (地域連携3.0)。

奇しくも世界全体で大きな変化が生じているときに真に地域に期待される大学となることを期待している。

(記：第3代知的財産本部長 [平成19～20年度] 中村 高遠)

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. BIO tech2012「アカデミックフォーラム」に出展します

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

1. BIO tech2012「アカデミックフォーラム」に出展します  
～併催：第11回 国際バイオテクノロジー展～

日時 2012年4月25日 (水)～4月27日 (金)

会場 東京ビッグサイト 東ホール

内容

○4月26日 (木) 11:30～12:00 ACA-6

「深部地下水の微生物群集を使ったエネルギー生産システム」

(理学部 木村浩之講師)

○4月26日 (木) 13:30～14:00 ACA-2

「糖鎖を活用した機能性材料の開発」

(創造科学技術大学院 尾形慎特任助教)

○4月27日 (金) 11:30～12:00 ACA-9

「新規医薬品ターゲット、ステロイド膜受容体作用分子のアッセイ法の開発」  
(理学部 徳元俊伸教授)

詳細/申込 <http://www.bio-t.jp/>  
問合せ 静岡大学 イノベーション共同研究センター/知的財産本部  
E-mail bioexpo-s@cjr.shizuoka.ac.jp

---

《 静大ラボ紹介 -36- 》

創造科学技術大学院/農学部 特任助教 尾形 慎

この冬もインフルエンザが流行しました。また、新型インフルエンザのパンデミックが騒がれたのも記憶に新しいところです。これらインフルエンザウイルスにはまだ決定的な特效薬がありません。ウイルスも根絶やしにならないためか、毎年異なる型が流行し、また少しずつ変異を繰り返しているからでしょうか。

さて、創造科学技術大学院（農学部）の尾形慎先生は「糖鎖」の研究を行っています。この糖鎖は構造によって様々な機能を発現します。そのひとつがインフルエンザウイルスの阻害効果です。ウイルスがヒトの細胞に結合、感染する前に、糖鎖で捕捉してしまいます。この効果のメカニズムが解明され、薬として使われるようになると、インフルエンザの流行は抑えられるかもしれません。

尾形先生は、様々な構造の糖鎖を合成し、多くの生命現象に役立つ機能をもった糖鎖の開発に励んでいます。

一見、学生と間違えてしまうほど若々しく、非常にフットワークの軽い尾形先生は、産学連携活動にも積極的です。来月東京ビッグサイトで開催される「B10 tech2012」に出展しますので是非お立ち寄り下さい。

【研究分野】 糖鎖工学

【キーワード】 糖鎖、ウイルス阻害剤

(記：知財コーディネーター 藤縄 祐)

---

《 みんなのコラム -50- 》

記：工学部機械工学科 教授 岩田 太

私達は、ナノスケールでのエンジニアリングとして、超精密計測機器開発や微細加工法開発に取り組んでいる。ナノテクノロジーを開拓するためにはナノスケールをただ“見る”（計測技術）だけでなく、エンジニアリングする必要がある。すなわち“ナノで切り貼りする”（加工技術）、“ナノで操作する”（マニピュレーション技術）ことが実現してはじめてナノの世界での“ものづくり”が可能になる。

われわれはこのナノの世界でも容易に、しかも精巧に“ものづくり”が可能になる技術（ナノクラフトテクノロジー）を目指して日々チャレンジしている。具体的には、走査型プローブ顕微鏡装置開発、超音波技術開発、レーザマニピュレータ技術、磁気マニピュレータ技術等を用いてナノスケールでの計測・加工・操作技術を開発している。

こうした成果は、学術論文や学会発表のみでも以前はある程度、満足していたが、やはり開発したシーズは実社会において活用いただけるような形へと発展させる重要性を意識するようになり、最近では産学連携にも積極的に取り組んでいる。イノベーション共同研究センターおよび知的財産本部のスタッフの皆様のご指導・ご協力のもと、企業との共同研究や事業化プロジェクトなどに携わることで、産業界や社会のニーズを意識しながら研究開発を進められる環境も整いつつある。

これまでにJSTのシーズ発掘試験や先端機器分析技術開発、文部科学省知的クラスター創成事業などに参加する機会を得ており、企業との共同研究を行いながら、フォトマスクリペア装置や顕微解剖用ナノマニピュレータ、半導体微小表面の抵抗分布測定装置、薄型位置決めステージの開発などに取り組んでいる。

事業化、製品化への道は厳しく険しいことを痛感させられながらも、専門分野である超精密計測・微細加工の開発シーズがさまざまな応用に発展していく過程は、大変有意義であり楽しく取り組んでいる。今後も皆様のより一層のご協力ご支援をお願いしたい。

《 編集後記 》

静岡大学では、研究成果有体物取扱規則の改正により、今年度から研究成果有体物の外部機関への提供または受領をする場合、知的財産本部に届出を行った上でMTA (Materials Transfer Agreement) を締結することになりました。

研究成果有体物の取扱いについては、2002年の文部科学省による通知に基づき、多くの大学が体制整備を行ってきましたが、2010年の生物多様性条約名古屋議定書の採択により、遺伝資源の入手方法等への対応が必要となったことから、改めて見直しが図られています。

静岡大学でも、法令遵守とトラブル防止のために、規則改正の趣旨と具体的な手続きについて教員へ説明を行いました。

教員の健全な研究活動の為、大学におけるこのような取り組みについて、関連分野の皆様には、ぜひご理解をいただきたいと思えます。

\* - \*

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。(↑送付の際は〇欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)  
編集：原典子  
編集責任者：木村雅和  
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1  
TEL 053-478-1414  
URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

\* - \*

Copyright(c)2008-2012 Innovation and Joint Research Center, Shizuoka University. All rights reserved